

SS科学基礎「先端科学講座」

SS科学基礎は、「先端科学講座」、「先端科学体験」、「自然探究活動」のプログラムを通して、基本的な科学を理解し、科学の楽しさを学びます。

今回は「先端科学講座」として、9月16日（金）に東京理科大学理学部教授の川村康文先生による出張講義が開催されました。

【対象】英進部1学年（211名）、総合進学部1年、2年理系（100名）

講義の演題は「これからのエネルギーを考えよう!」でした

今年は東日本大震災のため電力不足が叫ばれ、全国で節電の取り組みが行われています。その中で、自然エネルギーとして太陽光発電が特に注目を浴び、その設置が推奨されています。しかし、太陽光パネルの半導体にはヒ素などの有害物質が含まれており、太陽光パネルの寿命がきて廃棄するときに環境汚染につながる恐れがあり、大きな問題となるであろう。そこで、川村先生が研究に取り組まれている、色素増感型太陽電池は環境に優しく将来とても有望な発電方法であることを教えていただきました。また、サポニウス型の風車を利用した発電についても講義をいただき、その原理と工夫に生徒たちはとても感心していました。講義後には生徒から多くの質問もあり、先生は丁寧に対応してくださいました。



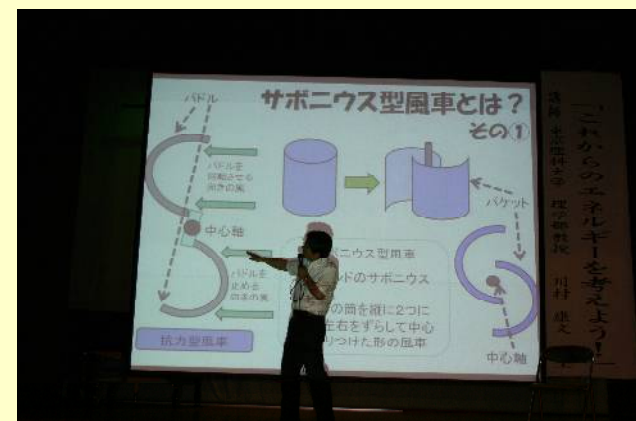
「これからのエネルギーを考えよう!!」
東京理科大学理学部教授 川村 康文先生



身近なものからエネルギーについて深く考えてみると新たな発見や発明につながることを学びました。



色素増感太陽電池について説明して頂き、生徒たちも熱心にメモをとり、内容を要約していました。



サポニウス型風車の特徴に加え、改善点なども説明して頂き、風力発電について学ぶことができました。